



「Toyotsu Core Values」を発揮した、最近の取り組みをご紹介します

航空機エンジン部品を手掛けるAeroEdge社に出資 ～わが国の航空機エンジン業界の国際競争力向上に貢献～

当社は航空機エンジン用部品の製造・販売メーカーであるAeroEdge株式会社（以下「AeroEdge」）が実施する第三者割当増資により発行する株式を引き受けました。

AeroEdgeは、近年、新素材として注目されている各種難削材（チタンアルミなど）の加工とその工程設計のノウハウを強みとしています。チタンアルミは軽量・高硬度であり、航空分野に限らず用途が拡大していますが、超難削材であるため、世界で切削できるメーカーは限られています。また、厳しい品質管理基準の確立・維持が求められる航空機業界の中で、AeroEdgeは開発～製造～品質保証まで一貫して請け負える体制を整えています。



当社は、2015年に航空機部品製造を手掛ける旭金属工業株式会社と航空機部品の表面処理加工を行う事業会社「Asahi Aero Malaysia SDN BHD.」をマレーシア・クアラルンプールに設立するなど、航空部品製造事業に参入しています。またラオスのワットタイ国際空港や日本の仙台国際空港といった空港運営も手掛けており、航空関連事業の領域を拡大しています。

今後も自動車分野をはじめとした生産支援事業で培った生産・物流管理の知見及び海外ネットワークを活用することで、日本の航空産業の活性化に貢献していきます。



出所：SAFRAN AE、AeroEdge

エジプト初の風力発電IPP事業に参画 ～同国のエネルギーミックスの調整と電力不足解消に貢献～

エジプト・アラブ共和国（以下「エジプト」）の電力需要は今後安定的に伸び続けることが予想されています。その旺盛な電力需要に対応すべく、発電所の新設や拡張などが進められています。また、火力発電に偏重していた電源構成にバランスを持たせるため、再生可能エネルギーの導入が推進されており、エジプト政府は2022年までに総発電量の20%を再生可能エネルギーで賄うという目標を掲げています。

当社と当社子会社である株式会社ユーラスエナジーホールディングス（以下「ユーラスエナジー」）は、エジプトにおいて262.5MWの風力発電所の建設・所有・運営事業を受注、完工後20年間にわたり発電所を運営し、電力を販売するIPP（イン

ディペンデント・パワー・プロデューサー）事業に出資参画いたします。建設期間は約2年で、2017年末に工事を着工し、2019年12月の商業運転開始を予定しています。なお、本件は同国の風力発電において初のIPP事業となります。

本事業は、当社及びユーラスエナジーのほか、独立系発電事業者であるフランスEngie S.A.及び建設会社であるエジプトOrascom Construction SAEの4社により事業会社「Ras Ghareb Wind Energy SAE」を設立し、事業を推進してまいります。

需要の高い再生可能エネルギー分野において当社は、グローバルに風力・太陽光発電事業を展開しているユーラスエナジーと協業しながら、事業を拡大・展開させてまいります。



※イメージ図